

令和6年度 第1回奈良県食育推進会議 会議の概要

日 時: 令和6年8月9日(金) 10:00~11:45

場 所: リガーレ春日野 1階天平の間

出席者: 足利委員、上地委員、植村委員、合田委員、白樫委員、富岡委員、西村委員、松井委員、松田委員、山田委員(10名)

議 題

- (1) 議事録の作成について
- (2) 第4期奈良県食育推進計画の推進について
 - 1) 指標の設定について(追加分)
 - 2) 令和6年度食育の取組状況について
 - 3) 「誰もが自然に健康になれる食環境づくり」について

概 要

- 医療政策局 通山局長より挨拶
- 上地委員を議長として指名
- 議事要旨(以下のとおり)

議題(1) 議事録の作成について

<事務局>

令和5年12月に県庁において、「庁内の会議等における議事録等の作成基準について」が示され、附属機関の会議においては、議事録または会議の概要のいずれかを作成することとなり、本会議について、事務局提案としては、これまでと同様、会議の概要としてまとめ、公文書として登録、保存公表することを考えています。

※全員、会議の概要として作成することを承認

議題(2) 第4期奈良県食育推進計画の推進について 1) 指標の設定について(追加分)

<事務局(健康推進課)>

第4期計画の35個の指標のうち、現状値が未把握であった5つのうち、現状値が把握できた4つについての報告と、令和6年度に目標値を設定するとしていた2つについて、ご審議をお願いします。

(資料1にもとづき、説明)

<上地議長>

事務局から提案のあった「人と比較して食べる速度が速い人の割合」の目標値について、ご意見等お願いします。

全国との比較についても、富岡委員から補足説明をお願いします。

<富岡委員>

(追加提出資料に基づき説明)

7p 下のグラフ、「人と比較して食べる速度が速い者の割合」について、全国平均は男性が 36.1%、女性が 27.3%になっています。これに対して、奈良県の男性は 37.8%、女性が 28.4%と、全国平均と比較して食べる速度が速い。簡単に言うと、速食いの人の割合が奈良県は、全国平均より高いことになります。

ただし、このデータ元になる NDB は特定健診の対象者、すなわち 40 歳以上 74 歳までが対象になっておりますので、県のなら健康長寿基礎調査の場合は 20 歳以上の方ですが、NDB データには 20、30 歳代のデータは含まれません。

8p 「人と比較して食べる速度が速い」は特定健診の質問項目で、「速い」「普通」「遅い」が 1/3 に分かれることをねらった質問です。奈良県は「速い」が 33.4%ですが、「ふつう」と回答した人が約 6 割いて、3 分割できていない。質問の限界、日本人は 3 択の真ん中を選びたい国民性があるので、日本人特有なのかと思われるので、そういう意味では、研究者からすると「人と比較して」を指標にするのはどうなのかなど感じるところがあります。

議長もお感じかなと思いますが、実態としては、働き盛り世代が課題というところは綺麗に抽出できていますし、何よりも、奈良県では、食べる速度に注目しなければならない、下げていかなければならない。これを目標にするのは、いかなるものかなというところがあるにしろ、奈良県として非常に大事だということ、NDB データと比較することで根拠になるか思います。働き世代に着目して、奈良県は目標値を設定されたことは、非常に奈良県の計画としては、適していると思われます。

<上地議長>

富岡委員から詳細にデータをご提示いただきました。奈良県では、働き世代に注目して、食べる速度を、今一度、県民に問いかける、ゆっくりよく噛んで食べることが生活習慣病予防になることで、今回設定されたということでした。

「地域等で共食している人の割合」につきましては、令和 5 年国民健康・栄養調査の結果が発表された後に、決定していかれるとのことでした。

「学校給食で郷土料理や伝統料理を月に 1 回以上提供する市町村の数」は 39 市町村のうち 20 市町村が達成できているということでした。郷土料理、伝統料理は栄養教諭や学校栄養職員の方々が努力されているところですが、すべての市町村において実現するのは難しい、何か障害となる要因もあるかと思いますが、いかがでしょうか。

<事務局(体育健康課)>

学校給食で郷土料理、伝統料理を提供することになりますが、これは地場産物の活用とも絡んでくるかと思えます。そういった場合に、市町村によって、その状況、農作物の作られている状況が違いますので、先ほど言われたように、それが厳しい市町村もあろうかと考えておるところです。

地場産物の活用につきましても、国も県もそうですが、その活用率については維持または増加を目標としていますが、そういった実情については理解してるところです。

<上地議長>

特に、昨今いろんな食材が値上がりしております。その中、給食費が値上げになった市町村は限られていると思えますので、金額的にも難しいところもあると思えます。JA等との協力の上で、いろんな作物を入れながら、現状 20 市町村ですけれども、21、22 と、少しずつ進めていただけたらなと思えます。

<富岡委員>

「地域で共食している人の割合」ですが、健康日本 21（第三次）の目標値を 30%としているのは、「共食している人」の定義が県と異なると思われるので、調査の結果を参考にすることは必要ですが、質問が違っているのであれば、公表されていなくても可能かなと思います。

<事務局>

ご意見の通りだと考えております。現状、国民健康・栄養調査の値と健康日本 21 の目標値が、どれぐらい乖離してるかはわからない状況で目標を設定することは難しいと考えているので、県の現状値が 67.3%であることを本日共有させていただいて、その定義や国の指標と差があった場合には、設定方法についてはご提案させていただこうと考えています。

<上地議長>

国との差があった場合は、再度ご提案いただくということでよろしく願います。

それでは、事務局のご提案をご承認いただいでよろしいでしょうか。

※全員承認

議題(2)第4期奈良県食育推進計画の推進について 2) 令和6年度食育の取組状況について

<事務局(健康推進課)>

食育推進会議の開催に先立ちまして、庁内関係課及び委員の皆様に取り組みについて、照会させていただきました。その内容については、資料2にまとめさせていただきました。

時間の都合上、表右側、令和6年度の取り組み内容予定のうち、太枠で囲ってある部分、特に第4期計画からの新規の取り組み、また県として重点的に推進したい取り組みについて共有させていただきます。

(資料2に基づき説明)

<上地議長>

ただいまのご説明につきまして、ご質問、ご意見、補足説明等ございましたら、願います。

<松井委員>

職場における食育の推進、私どもとしては現役世代の健康課題ということで、まずは健診を受けていただいて、結果に基づき保健指導をさせていただくということですけど、なかなか個人では動きにくい状況もありますので、企業、会社を巻き込んで健康になっていただこうと活動しています。資料に記載のとおり、企業として「職場まるごと健康宣言」していただいて、従業員の皆さんに対して食事に関することの広報など、やっていたいてるところです。ここに記載あるのは、令和6年5月時点で 1211 事業所ですけど、8 月時点では 1237 事業所と、どんどん増えている状態にあります。令和6年度末には 1350 社を目標に頑張っているところです。

協会けんぽ奈良支部全体では 2 万社ありますので、宣言していただいているのは 1 割ない状況ですが、私どもは中小企業が多く、組織として成り立っていない、1人、2人という会社もありますので、そういうことも含めて、やっていけたらと思っています。

<上地議長>

地域職域連携推進協議会について、事務局から説明いただけますか。

<事務局(健康推進課)>

保健所単位では、すでに地域職域連携推進協議会が設置されていますが、県域の協議会というものが設

置されていない状況にございました。今年度は県においても、その機能、会議を持つ予定にしております。地域いわゆる国保の部分と、職域、社会保険の部分に合わせて県民の健康づくりというものを推進していくということで、この協議会において意見交換などを行いながら、推進していく、国においても、積極的に推進しておりまして、県としても進めていきたいと思っております。

<富岡委員>

先ほどの資料の1p下ですが、協会けんぽ奈良支部さまより、協会けんぽの全国の47支部中、奈良支部の睡眠の問題として、「睡眠でしっかり休養が取れていますか」という質問に対して、「取れていない」と答えてる人の割合が、奈良支部はワースト2位が長く続いているということで、相談がありました。

この問題は、協会けんぽ奈良支部に限ったことなのか、奈良県民全体の問題なのか。先ほど紹介させていただいたNDBデータで、奈良県の睡眠休養感が全国平均と比べてどうなのかを見たところ、

2p上のグラフですが、「睡眠で休養が取れていない」と答えた方の割合について、男女ともに、いずれの年代においても、奈良県は全国平均よりは睡眠休養感、いわゆる睡眠の質が悪いということがわかりました。このことから、協会けんぽ奈良支部だけの問題ではなく、奈良県民全体の問題であるということもわかりました。

そこで、県民の睡眠休養感を改善するためにはどのようなことをすればいいのかということで先行研究を調べてみました。

3p上、先行研究として、国際雑誌に掲載されたレベルの高い研究に限定して調べました。

睡眠やその特性について、国民性や社会環境等いろんな影響がありますので、日本人を対象とした研究4つを参考にしました。

3p下、健康保険組合の検診データを用いて、「睡眠休養感のない睡眠が新規に発生した人」が、どのような要因で睡眠の質が悪くなったのかを調べた研究で、食生活と運動習慣が関係していることがわかりました。具体的には、速食い、就寝前の夕食、朝食の欠食という食生活を送っていると、睡眠休養感がない睡眠が発生してしまうということです。

4p、男女ともに、奈良県は全国平均よりも速食いの人が多いことがわかったところではありますが、それ以外について、「就寝前2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある人の割合」に関しては、性、年齢によっては、全国平均より多い世代もありますが、全体としては全国平均よりは低く、県全体の問題ではないということがわかりました。

5p、「朝食を欠食する人の割合」については、奈良県は全国平均より少なく、問題なさそうだということでした。「定期的な運動ありの人の割合」についても、男女ともに、奈良県は全国よりも高くなっておりまして。

6p、「身体活動レベルが低い人の割合」について、奈良県は全国平均と同程度であります。

「歩行速度が遅い人の割合」に関しても、全国平均と同程度ということで、特に問題というわけではありませんでした。

7p、先行研究で指摘されている食生活と運動習慣について、睡眠休養感がない睡眠の新規発生の予測因子として、奈良県は速食いの方が多く、この速食いと睡眠休養感が、ともに働き世代の問題であるので、働き世代の健康推進へのアプローチがやはり鍵になることがデータから明らかになっています。

<上地議長>

新規の取り組みとして、オーラルフレイル等、口腔機能の維持向上のための取り組みを推進していくということで、中和保健所ではいろいろ取り組みをしていただいているようですが、実際に実施していただき、効果

等ございましたら教えていただきたい。

<事務局(中和保健所)>

地域のスーパーマーケットで、オーラルフレイルの予防として、咬合圧の測定やパネル掲示をしました。興味のある方が参加されることで、歯の悪い状態の方がこられるというよりは、自信のある方がこられることが多く、比較的かむ力を待ってる方が多かったです。オーラルフレイルという言葉を知らない方もたくさんおられましたので、啓発はうまくいけたかなと感じております。

この日は、併せて、やさしおベジ増しプロジェクトの推進や受動喫煙の防止の啓発もさせてもらい、一括で身近なスーパーでいろんなことが学べるのがよかったようで、今後も実施して欲しいという声をいただいています。

<上地議長>

ひとつのテーマを取り上げるのではなく、測定や、やさしおベジ増し、受動喫煙のこと、いろんなことを複合的にスーパーで実施されたということで、例えば、やさしおベジ増しには関心あるけど噛むことには関心なかった人に啓発できる機会になっているかもしれませんね。

いろんなものをテーマに取り上げて総合的にやれるところが保健所の魅力でもあるのかなと思います。

<富岡委員>

奈良県で、働き盛り世代の健康づくりが重要だということですが、実際、働き世代のゆっくりご飯を食べる時間もない方に、「ゆっくり食べなさい」とすすめることは難しい、どうすれば介入できるのかについて、私の中でまだ何も示すことができていない。

子育て中の方は、食べる時間を犠牲にしているところもあって、保育所に勤めている皆さんの昼食の時間はなく、休憩を交代でとりながら、すごく速く食べている様子を見えています。速食いが課題としながら、どうすればいいのかというところが、わからず、非常に心もとなく思っています。

協会けんぽ様では、働き世代の速食いの割合を減らしていくこと、何かできますでしょうか。

<松井委員>

なかなか難しいとは思いますが。

何がいいかというのは、専門家の方に聞くのがいいかなという気がします。

<上地議長>

先ほど意見のあった「よく噛む」としてのアプローチも大事ですね。

職場でゆっくり食事をする雰囲気がない、自分だけゆっくり食べるというのは気兼ねして、食べにくいということがあるかもしれません。例えば、学校給食も「ゆっくりよくかんで食べましょう」ということを目標に挙げてはいると思いますが、この給食の時間をしっかり確保しにくいのが実情なのかなと思います。

先生方にもゆっくり食べていただきたいと思いますが、いろんな要因によって、どうしても速く食べないといけない条件下に置かれているのもあると感じます。

私たち自身が食育推進会議で、今後も何とか取り組みを行いながら、皆さんにゆっくりよく噛んで食べていただく。それが最終的にはフレイル予防等にもなるということで、何らかの形で取り組む方法を見つけながら、今後も食育を推進していきたいと思っております。

<富岡委員>

今の議長のご指摘は、全国共通の働き世代の問題かなと思いますが、奈良県特有の何か要因はあると思うので、今後、やはり探求していかなければならないと思います。

<上地議長>

奈良県独自の何か問題が見つかるかもしれないということで、その点に関しましては、富岡委員にお任せして、新しい知見が出ましたら、ぜひ、ご紹介いただきたいと思います。

先ほど事務局からご説明いただきましたが、数多くの取り組みを、県下挙げて、皆様にやっていただいているということに関しまして、本当に感謝申し上げます。

これだけの食育をやっていることが、県民の皆様にも、もっと浸透していけば、何か私たちのものできる可能性があると考えていただけるのではないかなと思いますので、今後も引き続き、この食育の取り組みの発信について、いろんな方向から考えていくのが大事だと思います。

議題(2)第4期奈良県食育推進計画の推進について 3)誰もが自然に健康になれる食環境づくり

<事務局(健康推進課)>

この議題に入る前に、先の議題で、速食いの話がありました。働き世代の健康づくりというところで、肥満に着目した形で、速食いする人を減らすための施策を考えているところですが、速く食べない、ゆっくりよく噛んで食べる、朝食を食べるといった生活習慣、食習慣は、働き盛り世代に改善しなさいというだけではなくて、やはり子どものころからの食習慣が繋がってくるのかなと思ってます。委員の皆さん方、保育所、PTA、こども食堂など、子どもの食生活に関わるいろんな方のご協力をいただいて、次世代の健康づくりというところで、一緒に取り組めたらなと思っております。

次の議題、食環境づくりについて説明させていただきます。

第4期の奈良県食育推進計画の基本方針の1つ目、健康寿命の延伸に向けた食育の3つ目の施策としております、自然に健康になれる食環境づくりに関係することになります。

資料2にも記載しているとおり、この取り組みは食品関連事業者において健康的な食品の開発、販売、栄養関連情報の発信をしていくなどの取り組みをするなど、自治体、行政だけでなく、多様な主体による連携協力が必要になっています。この取り組みをより多くの事業者に知って、参加してもらって、奈良県の食育を推進するところを増やしていきたい、広げていきたいと考えております。

(資料3に基づき説明)

(参考資料に基づき事例紹介)

<上地議長>

すでに取り組みが始まっているわけですがけれども、誰もが自然に健康になれる食環境づくりへの感想や、今ご説明いただいた内容に関しまして、改善策や課題と感じられる部分など、ご意見をお願いします。

<足利委員>

奈良県社会福祉協議会で市町村の社会福祉協議会の方と地域福祉の推進ということで、地域包括支援課さんで書いていただきました通いの場合も含めて、地域住民の方にいろいろとアプローチをしながら、取り組みを考えている団体です。今お話いただいたことや先ほど話題になっていた速食いに関して、よくあるのは、ここ最近、孤食の問題と言われてまして、1人で食べてしまうと、サクサクと食べてしまって、しっかりよく噛むことに繋がりにくく、食事に対しての楽しみもなくなるのかなと思っております。

その中で、こども食堂ですと、お子さんだけの取り組みというわけではなく、地域のご高齢の方も含めて皆さんと一緒に楽しく活動、加えて楽しく食事をしていただくということを、皆さん自発的な取り組みとして進

めていただいていると思っております。

その中で、食事を一緒に食べるという機会ですと、先ほどの地産地消に関する関連する話かもしれませんが、お野菜がどういうふうなことで、どういう栄養を持って、どういうことで意味があるから食べた方がいいよとか含めて、ご家族から言われるのではなく、近所のおじいちゃんおばあちゃんから言われることでお子さんが食べることになりましたよ。っていうお声を、こども食堂の活動者さんの方からいただくこともありますので、その中で、ゆっくり噛んでということも合わせて話も進めていけたらいいなと聞かせていただきました。自然に健康になる食環境づくりの1つの形としてということで、イオンリテールさん、ヘルスチーム菜良協議会さんと、10月に販売されるお弁当はすごくいいなと思っております。その手前の段階で、レシピ開発をされているということで、同じ食材を使えるかどうかは課題になると思いますが、このレシピの開発を広く出していただける、こういう形で、売るだけじゃなくてレシピ開発に関する情報提供をいただけると、こども食堂の活動者さんも、日頃メニューで悩まれている方もおられますので、レシピに関して提供いただける等、広い意味での、誰もが自然に健康になる食環境ということに繋がっていくんじゃないのかなと思っておりますので、ご検討いただけたらと思っております。

<事務局(健康推進課)>

今回、お弁当開発ということで、ヘルスチーム菜良さんに、いろいろアイデアを出してもらってるところですが、これに限らず、健康的な献立レシピは、こども食堂さんをはじめとして、提供できるものはありますので、いろんな機会をとらえて提供していきたいと思っております。また、地域では食生活改善推進員さん、栄養士会さんもレシピはたくさんお持ちかと思うので、お互いに何か共有できればいいなと考えております。

<合田委員>

食生活改善推進員としましては、いろいろ重なるところもありますが、今、力を入れてますのは、若者世代への食育教育に重点を置いております。

若者世代といいますが、保育所等は定期的に活動ができていますが、中高生、特に高校生を対象に、若者世代ということで、食育教育をここ何年か前から始めてるんですけども、コロナの期間は一旦ストップしておりました。また、今年から、そこに力を入れていきたいのですが、学校の方と上手く、話がつかず介入しにくいこともあります。栄養教諭さんも入られてるので、その辺の指導はしっかりされてるかと思うんですけども、地域住民がその学校の場に入ることで、学生の方への伝わり方も若干、違うと思うので、その辺を、行政の方からもご支援いただけたら、食育活動もスムーズにできるのではないかなと考えています。

この速食いの件に関しても、やはり幼少期から家庭での食育、教育だと思います。

家庭も、学校も、いろんなところが関与して初めて、子供さんに自然に身につけていくことだと思いますので、一番大事な時期にしっかり食育教育をしていきたいなと考えております。

こども食堂さんに対してのレシピ提供に関してはおそらく可能だと思います。

<松田委員>

学校や病院、福祉施設などで勤務してる栄養士が、それぞれに特徴のあるレシピをホームページに載せさせておりますので、活用していただけたらと思っております。

<植村委員>

先ほど高校での食育という話がありました。

私自身、3月まで高校の現場にいましたが、学校給食がないので、基本的に好きなものを食べている、食堂でも唐揚げとか、なるべく安くて、栄養もあると思いますけども、そういう量が多いのが高校生です。食育

は、第一優先ではないと思います。

学校給食会としては、小学校、中学校の学校給食をしますので、食育を進める上でその子供たちの実態を知らないといけないというところで、昨年、小学校 5 年生と中学校 2 年生を対象に、朝食の状況など、アンケートをとり、今それをまとめているところです。その結果をもとに、どういう形で子供たちに食育、食事環境も進めていかなければいけないところがありますので、栄養教諭を中心に考えていただいているところです。

<白樫委員>

我々は乳幼児がおられる事業所団体ですけども、奈良県として、データをもとにいろんな事業をしていただいていることに関しては、県民の皆さんの方にうまく周知できていることを願いながら聞いておりました。

取り組みの結果がすぐ出るものじゃないと思いますので、一步踏み込んでいくことが大事だと思います。

我々、保育所、こども園の事業としては、子供たちの栄養を担当するというのが一番なんですけども、その給食の時間というのを非常に大切にしています。その時間を楽しむことが食育に繋がるということで、一番ポイントに置いています。

乳幼児期においては、速食いは少ないかと思いますが、ただ、お迎えにこられる保護者の方が、やはり夜遅く来られる 7 時半とか 8 時、それからお家に戻られて、食事を作られて、夕食を取られて、睡眠に入るとなると、時間的なことを考えるとゆっくりした食事の提供ができてないのかなと感じています。

朝早く出られる方は、朝食をさっさと済ませるとか、場合によってはとらないで行かれるというようなこともあるかと思いますが、僕も何をしたらいいかわからないんですが、改善できて、時間をゆっくりと食事の時間に充てられるようになったら、その速食いというものも、なくなるのかなと。

保育所の中ではゆっくりと時間を過ごしたいなと思っています。先ほど富岡委員さんからありましたけど、うちの事業所では、保育士さんはゆっくり食べる時間を提供してるつもりでございませう。僕が一番速くて、気をつけてやっていきたいと思っています。

<山田委員>

保護者の立場で参加しているの、保護者目線からの意見になりますが、子供の食事が一番気になります。栄養面はもちろん、速食いのこともイメージしながら聞いておりました。

食事の面で言えば、学校給食をしっかり食べてくれていると、安心だと言う保護者がたくさんいます。

栄養士さんが献立を考えていただいて、栄養だけでなく、食生活の改善に向けてしっかり食べるような献立や、先ほども話題に上がった伝統食についても、奈良県ならではの柿の葉寿司、飛鳥鍋、その地域性のあるものが提供されているので、そういう意味では保護者としてはやっぱり安心かなと思っていますが、そういうことは、献立を読み込んでからこそ知ることであって、時間がなくて見えない保護者の方には伝わりにくい部分もあると思っています。その子供だけの取り組みじゃなくて、子供が学校で学べる環境というのがすごく大事だと思います。

子供が学んだことを家に帰って保護者とコミュニケーションとして、「こんな給食食べてきて美味しかった」「こういう食材があるんだよ」「こんな栄養素があるんだよ」というのを子供が学ぶことで、保護者の世代にも伝わっていく部分があると思うので、そういう教育環境みたいなものができていけば、その関わりの中で、みんなが学んで、子供が言ってきたこの食材またおうちでも調理しようとか、伝統食って言うけど学校でどんなメニューを出してるんだろうと思って、献立表を見たらメニュー献立レシピが載ってたりもするので、お互いに保護者も含めて学び合えるような環境を意識していければいいかなと思ってました。

速食いの件で言うと、給食の時間、準備から片付けまで含めて何分間の中で、すごく焦って食べてるお子

さんがいるのも事実かと思ってます。反対に、食事に対して不安があるお子さんは、好き嫌いが多いとか、量に対して不安があるお子さんは時間が足りなくてしんどい思いをしている状態の話も聞きます。個人的なことでは、うちの子供は食べるのがすごく好きで、いっぱい食べたいがゆえに速食になっている。とにかく早く食べないとおかわりができないんだと言ってます。

家ではもうちょっとゆっくり食べよって話していますが、よく噛んで食べましょうという指導と裏腹なんじゃないですが、そういう子供の思いの部分が出る環境もあるのかなと思います。時間がなくてとにかく早く食べなさいって学校の雰囲気も聞くことはあるので、その辺り含めて考えていきたいと思いました。

<松田委員>

栄養士会では、お弁当や惣菜を提供されてる事業者さんに対して、健康なお弁当を利用者さんに提供していただきたいということで取り組みを進めていますが、コストがかかる、調理に手間がかかる、あとニーズがないので売上げが伸びないという声があり、ここ最近では物価高で、さらに難しいような状況にあるので、本当にどうしたらいいのか、悩んでいるところです。

栄養士会としても、働き盛り世代の方々には野菜たっぷりのお弁当を食べていただきたいですけど、この世代はボリュームのあるお弁当、高校生もその辺がすごく好まれるということでしたけど、そこが難しく、事業者さんにメリットをどのように伝えたいということを悩んでいるのですが、皆様方で何かこういうことを提案したらいいのではないかと、成功例があったらぜひ教えていただきたいなと思っています。

もちろん利用されてる方への啓発も非常に大事になってくるんですけど、いかに事業者さんにとってのメリットを示すかということが今、課題となっています。

協会けんぽさんでは、職場まるごと健康宣言を1200社されてるということですが、そういったところで健康なお弁当を提供できるような体制とか、働きかけもしていただけたらいいなと思っています。

<松井委員>

私どもが「こうしてください」と言うのではなく、企業の方で自発的に「こうやります。」といった宣言をいただいているということです。

私どもで言うとホームページとか、メルマガとかで健康レシピなどは発信しています。

<西村委員>

自然に健康になる食環境づくりということで、県民に広げていくという点で、JAならとしましては、県内に直売所が数ヶ所ありますが、そういった直売所を拠点とした情報発信をしています。

資料にもありますが、1日の野菜摂取目標量350グラムですとか、野菜が本来持つような機能表示とか、そういった部分をいろいろ啓発するような広告やチラシを提供してはいるんですが、改めて振り返れば、工夫が足らずに、あまり印象に残らない、特徴がないと目に留まっても流されてしまう部分も、実際あると思うので、強く訴えかけることができるような工夫もしていきたいと考えています。

<上地議長>

食環境整備事業に関しまして、委員からご意見をちょうだいいたしました。

質問ですが、このイオンモールでのお弁当販売に関しましては、もちろんイオンさんの発信力というものもあると思いますが、県としてはマスコミ等への周知は、どのように考えておられますでしょうか。

<事務局(健康推進課)>

県のホームページで案内するほか、報道発表したいと考えております。

また、県民だより10月号にも一部お知らせということで、載せておりますので、お手元に届きましたら、見て

いただければと思います。

<上地議長>

私からは、豊かな食と農の振興課から、大阪万博のお弁当開発という依頼が大学にございました。そういったものも、この食育の推進の取り組みの中のひとつになると思います。

今回のこのイオンの方もうまくいけば、継続するということも考えていただけるのでしょうか。

やさしおベジ増しの話も、当初は、知っている人が少なかったように思いますが、ここ何年間かで随分浸透してきたような気がいたします。

こういった事業というのは継続が非常に大切だと思いますので、ぜひ予算面の措置をお願いして、事業継続されるように、お願いしたいと思っております。

私たち委員、関係団体、そして市町村、様々な協議会等も含めまして、引き続き、いろいろな食育推進の取り組みをやっていきたいと思います。

今後とも皆様のご協力、ぜひよろしくお願いいたします。

閉会